

1 単元名 Program 7 A Gateway to Japan
SUNSHINE ENGLISH COURSE 2

2 本単元で扱う領域における「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標（第2学年）

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
ア	はっきりと話されれば、天気予報などについて、必要な情報を聞き取ることができる。	文化の違いなどについて、かんたんな語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。	電話の会話などについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	好きな人物などについて、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。	行きたい国について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。
	PU1, PU2, PU3, ST1	P1, P2, P3, P4	PU2	ST2, ST3	P5, P9, S3
イ	はっきりと話されれば、環境問題や文化の違いなどについて、話の概要を捉えることができる。	メールでの報告などについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。	レストランでの食事などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	平和などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	行きたい場所について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
	P1, P2, P3, P4, ST2	PU5, OP4, OP5, OP6	PU3	P8	P2
ウ	はっきりと話されれば、差別とたたかった人物や日本の大衆文化などについて、短い説明の要点を捉えることができる。	職場体験などについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることできる。	夢の旅行や憧れの人などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。	1年の思い出などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。	自然を生かした技術などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。
	P5, P6, P7, P8	P5, P6, P7, P8, R1, R2, R3	PU5, OP4, OP5, ST5, ST3	OP6	P4

3 単元における指導観

○教材観

本単元は、日本のポップカルチャーに興味のあるダニエルが、漫画とアニメが好きな自分の叔父の話を通して、真央と会話をしている場面から始まり、海外で人気のある日本のポップカルチャーについて健がクラスで発表をする内容となっている。

言語材料としては、現在完了「(ちょうど)～し終えたところだ(完了)」「これまでに～したことがある(経験)」を伝える場面で have + pp～. が扱われ、ダニエルや真央、健が、自分たちがすでにし終えた動作や、これまでに読んだり聞いたりしたことなどの、経験したことを伝えるために用いられている。

したがってこれらを学ぶことで、日本のポップカルチャー～や若者文化に興味のある ALT に、〇〇中学生の間で流行しているポップカルチャー（若者文化）を知ってもらうために、流行しているものの情報やその理由、自分がこれまでに経験したことなどを踏まえ、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書く力を養う事ができるものとする。

○生徒観

本学級の生徒からは、様々な活動に対して積極的に取り組む姿勢を見ることができる。特に友達と「話すこと（やり取り）」については意欲的である。しかしながら、4月からの授業においては当初、「書くこと」に自信を持っている生徒が少ないのが現状であった。

そうした現状を踏まえ、自分自身に関することや自分の考えや気持ちなどについて、教師と生徒、生徒同士の口頭でのやり取りや発表等をした後に話した内容を書く活動を通して、少しずつではあるが「書くこと」

に主体的に取り組もうとする生徒たちの姿勢を感じることができた。こうしたことから、伝えたい内容を整理させ、目的や場面に応じた表現等を考えさせながら書く力を養いたい。

○指導観

本単元は、本文においては対話文を通して日本のアニメや漫画といったポップカルチャーについて話し合う話題となっており、さらに SCENES では日常生活やこれまでに自分が経験したことについてのやり取りを行う場面となっている。生徒にとって身近な話題であるポップカルチャーということもあり、〇〇中学生の間で流行しているポップカルチャー（若者文化）について書いたり、発表したりすることを目的とした学習に適した内容となっている。

そこで言語活動として、日々自分たちが体験・経験しているポップカルチャー（若者文化）について、流行しているものについてとその理由、自分の考えや気持ちなどについて、教師の話の聞いたり、ペアやグループで伝え合ったり、また伝えあった内容について書くことの積み重ねを通して「書くこと」の技能に焦点を当てた指導を行う。

単元終末の活動として、日本のポップカルチャーや若者文化に興味をもっている ALT に、〇〇中学生の間で流行しているポップカルチャー（若者文化）について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書き、発表をする活動を行う。聞き手にとって分かりやすい発表をするために、使用する表現や内容等の構成を考えながら、流行しているものとその理由、また自分の考えや気持ち、経験したことなどについてまとまりのある文章を書く力を向上させたい。

4 単元の目標

日本のポップカルチャー、特に若者文化に興味のある ALT に、〇〇中学生の中で流行していることやものを知ってもらうための「Joto JHS Young Culture Book」を作成するために、中学生の間で流行しているものやことの情報や自分の考えや気持ち、経験したことなどを整理しながら構成した内容をもとに、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

5 単元の評価規準（「書くこと」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 現在完了（完了・経験・継続）を用いた文の特徴やきまりを理解している。 〈技能〉 〇〇中学生の中で流行しているものについて現在完了を用いて書く技能を身に付けている。	〇〇中学生の中で流行しているものについて、そのものやことについての情報や流行している理由、自分の考えや気持ち、経験したことなど、構成した内容をもとに簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。	〇〇中学生の中で流行しているものについて、そのものやことについての情報や流行している理由、自分の考えや気持ち、経験したことなどについて、構成した内容をもとに簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くこととしている。

6 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい（■），言語活動（丸数字）	評価			備考
		知	思	態	
1	■ 単元の目標を理解する。 ■ 教科書の対話文を読み、自分の好きなことや興味のあることについて伝え合う。 ①JTEとALTの興味のあるポップカルチャーについて聞き取る。 ②教師の話の中で使われている未知の語の意味や現在完了（完了・経験）の文の構造と意味を理解する。 ③今日すでにしたこと、していないことについてペアで伝え合う。 ④伝えた内容について書く。				
2	■ 教科書の対話文を読み、これまでにしたことがあることやないことについて伝え合ったり書いたりすることができる。 ①教科書の対話文を読み、内容を理解する。 ②対話文で使われている未知の語の意味を理解する。 ③対話文の内容を踏まえ、自分自身のことをペアで伝え合う。 ④伝えた内容について書く。				
3 本時	■ これまでに自分が経験したことについて伝え合い、その内容について書くことができる。 ①JTEとALTの対話を聞き、内容を理解する。 ②マインドマップを活用し、これまでの学校生活を振り返る。 ③ペアやグループで伝え合い、語彙や表現を確認し合う。 ④伝えた内容をまとめて書く。				
4	■ 教科書の対話文を読み、海外における日本文化の現状についての内容を理解する。 ①教科書の対話文を読み、内容を理解する。 ②対話文で使われている未知の語の意味や現在完了（完了）の文の構造について確認をする。 ③対話文の内容を踏まえ、ペアで興味のある漫画やアニメについて伝え合う。				
5	■ 教科書の対話文を読み、海外における日本の漫画についての内容を理解する。 ①教科書の対話文を読み、内容を理解する。 ②対話文で使われている未知の語の意味や現在完了（完了）の文の構造について確認をする。 ③対話文の内容を踏まえ、自分の好きなものや興味のあるものについてペアで伝え合う。				
6	■ 教科書の対話文を読み、英文を参考にしながら〇〇中学生の間で流行しているものについて、情報や自分の考え、気持ちなどを紹介する。 ①教科書の対話文を読み、内容を理解する。 ②対話文で使われている未知の語の意味や現在完了（完了・経験）の文の構造を確認する。 ③流行しているものについてペアやグループで話し合い、それをもとに紹介文を書く。				
7	■ 〇〇中学生に流行りの若者文化について、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて紹介文を作成する。 ①前時に確認した表現等を踏まえ、自分が書いた紹介文を修正する。 ②各自の紹介文をグループ内で伝え合い、1つの紹介文を作る。				
8	■ 〇〇中学生に流行りのポップカルチャー（若者文化）について、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて紹介する。 ①グループごとに紹介文を発表し、ALTから感想や質問を聞き、やり取りをする。 ②単元を振り返り、学習内容のまとめと次の課題を明確にする。	○	○	○	
後日	後日ペーパーテスト ・海外で人気のある日本のポップカルチャーについて、自分の考えや気持ち、経験したことなどを簡単な語や文を用いてまとめることができる。	○	○	○	・大単元（複数単元）終了後実施

記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。

7 本時の活動（第3時）

（1）目標

これまでの中学校生活を振り返り、自分が経験したことについて友達や ALT と伝え合い、正確な語彙や表現を用いて書くことができる。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の留意点		評価の場面	評価方法
		JTE	ALT		
2分	1 挨拶をし、本時の目標を理解する。	・全体に挨拶をし、雰囲気作りに努める。			
3分	2 small talk を行う。	・週末したことについてのやり取りを ALT と行う。その後ペアでやり取りをさせる。	・ JTE とやり取りをする。		
これまでに自分が経験した様々なことについて友達や ALT と伝え合い、現在完了を用いて書こう。					
10分	3 JTE と ALT の対話を聞き、内容を理解する。	・対話の内容とともに、使われている語彙や表現についても考えさせる。	・生徒の状況を確認しながら、必要に応じて表現を言い換えるなど、内容の理解を促す。		
5分	4 マインドマップを用いてこれまでに経験したことを考える。	・マインドマップの例を提示し、自分がこれまでに経験したことについて考えさせる。	・適宜、机間指導を行い、必要に応じて支援する。		
10分	5 どのような表現や語彙が必要か考えさせ、確認する。	・文法や語彙について再度確認をし、自分の経験をペアで伝え合う準備をする。			
5分	6 ペアで自分の経験について伝え合う。	・ JTE と ALT の対話を参考にしながらペアで伝え合わせる。	・机間指導を行ないながら、生徒の経験したことについて聞いたリ、尋ねたりする。		
5分	7 ペアで伝えた内容をクラス全体で共有をする。	・数名の生徒にペアで伝えあった内容をクラス全体で共有させ、表現や語彙の参考にさせる。	・机間指導を行ないながら、生徒の経験したことについて聞いたリ、尋ねたりする。		
7分	8 確認し合った内容を参考にまとめ、自分の経験したことについて書く。	・現在完了を用いて、自分の気持ちなどを取り入れながら書くことができたか、振り返らせる。	・適宜、机間指導を行ない、必要に応じて支援する。		
3分	9 本時の振り返りをし、挨拶をする。		・生徒の良かった点を伝える。		

記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。

8 評価及び指導の例（「書くこと」）

「十分満足できる」と判断される状況（a）	〇〇中の流行している若者文化とその理由について、自分の気持ちや考え、経験したことなどを整理し、表現や構成を考えた、読み手を意識したまとまりのある文章を書いている。
「概ね満足できる」状況（b）を実現するための具体的な指導	〇〇中の流行している若者文化とその理由について、自分の気持ちや考え、経験したことなどを整理し、表現や構成などについて前時に確認した内容を思い出させ、読み手を意識した、まとまりのある文章を書くことができるよう支援する。
「努力を要する」状況（c）と判断した生徒への事後指導	〇〇中の流行している若者文化とその理由について、自分の気持ちや考え、経験したことなどを整理し、表現や構成など、これまで学習してきたことを活用できるよう個別支援を行い、「概ね満足できる」（b）を達成できるようにする。